

平成 22 年 6 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19530880

研究課題名（和文）特別支援教育に関わるスタッフトレーニングプログラムの開発

研究課題名（英文） Development of training program for staffs working with developmental disabilities

研究代表者

谷 晋二 (Tani Shinji)

大阪人間科学大学・人間科学部・教授

研究者番号：20368426

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、特別支援教育に関わるスタッフトレーニングプログラムを開発し、その有効性を検討することである。そのため、1. ABA基礎知識テスト（KT-ABA）の開発、2. KT-ABAの妥当性の検討、3. 研修プログラムの作成（テキスト、ワークブック、研修DVD）、4. 研修プログラムの妥当性の検討を行った。

その結果、以下のような知見が得られた。

開発したABA基礎知識テスト（KT-ABA）は、ABAの基礎知識の学習後有意に得点が増加しているため、学習の成果をよりよく反映していると考えられた。KT-ABAは妥当性、有用性の高いテストであることが示された。開発した訓練プログラムは、ABAの基礎知識を指導する際に効果的であった。しかしながら、知識の学習だけでは実際の指導スキルの改善は十分ではなかった。したがって、特別支援教育に関わるスタッフの指導においては、知識の学習と指導スキルの指導を実際の場面で行っていかなければならない。

特別支援教育に関わるスタッフのトレーニングでは、従来スタッフ・教員研修で行われている講演や講義などのレクチャー形式の指導だけでなく、実施の指導場面での指導が重要で、今後の教員研修の在り方に反映させていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：This research has two purposes, one is developing training program for the staffs who are working with developmental disabilities, and the other is to examine the usefulness of this program. (1) We developed basic knowledge test of Applied Behavior Analysis (KT-ABA) and (2) examined the validity and usefulness of KT-ABA. (3) Training program, including a textbook, workbook and DVD, was developed. (4) The validity and usefulness of training program was examined.

Important results were obtained.

It was thought that KT-ABA would reflect the learning of ABA basic knowledge because the score increased after learning. KT-ABA showed the validity and usefulness. The staff training program we developed was useful to teach the basic knowledge of ABA. However, it was not enough well to learn knowledge for changing teaching skills. Then, both learning knowledge and skill training (on the job) should be necessary for the effective staff training.

We recommend that not only lecture but also on the job training should be given for the staff training.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：スタッフトレーニング

1. 研究開始当初の背景

障害のある児童・生徒への応用行動分析に基づく指導法の有効性はこれまで多くの研究で示されてきた。障害のある児童・生徒の発達の促進や適応行動の習得は、その指導に直接関わるスタッフの資質に大きく依存している。しかしながら、応用行動分析の理論や技法を障害のある児童・生徒の指導に直接関わるスタッフに、どのように指導していくかについては、これまでわが国ではほとんど実証的な研究が行われていない。

スタッフの資質向上に関する研究は、欧米ではすでに1970年代から組織行動マネジメント(OBM)の一つとして、多くの職種を対象に行われてきている。例えば、デイケアセンターのスタッフ(Parsons, Rollyson, Reid, 2004)、レスパイトケアスタッフ(Neef, et. al., 1986)入所施設スタッフ(Feldman, 1992)、ジョブコーチ(Mank, et. al., 2000)などで実施されてきている。

国内では谷、島宗(2001)や島宗(2004)が組織行動マネジメントに基づく教員指導を報告している。それらの研究を踏まえて、応用行動分析の技法を用いた組織行動マネジメントを行うことで、スタッフの資質向上に有効かつ効率のよいトレーニングプログラムの開発を行うことが本研究の学術的な特色のひとつである。

本研究で開発するトレーニングプログラムによって、スタッフの資質向上が効率よく達成され、その結果として障害のある児童・生徒への教育サービスが著しく向上することになると予想される。

加えて、このトレーニングプログラムは特別支援教育に関わるスタッフだけでなく、福祉や医療などの対人サービスに関わるスタッフ全般に適用可能であると考えられる。

2. 研究の目的

これらの点を踏まえて、本研究ではテキストと講義(もしくはDVDによる自習学習)で基礎的知識を、ロールプレイによって実践的なスキルの学習を行う。その後、実際の指導場面(スタッフの所属する学校)での実地指導(on the job training)を行う計画である。実地指導ではスタッフの所属する学校の特別支援コーディネーターと共に指導を行うことで、特別支援コーディネーターのマネジメントスキル、コンサルタントスキルの育成を図る。すでに予備研究によってこのテキストとDVDでの学習の有効性が予想されており(岸下、谷、2005、2006)、基礎的知識の学習後に実施予定であるロールプレイの予備的研究も実施している(二井、谷、2005)。

3. 研究の方法

(1) 行動分析基礎テスト(KT-ABA)の作成、妥当性の検討を行う。KT-ABAを作成し、その妥当性を、従来から用いられている類似のテストであるKBPAACとの比較、研修前後の得点の変化などから検討する。

(2) 自主学習用DVDの作成とその有効性の検討を行う。自習用のDVD、テキスト、ワークシートを作成する。

(3) 実際の指導スキルの変化を測定するための行動観察項目を作成し、研修後の指導スキルの変化を検討する。変化が見られないことが従来の研究からは想定されるため、変化が見られなかった場合にはOJT(On The Job Training)による指導を行う。

4. 研究成果

(1) 研修の成果を検討するための知識テスト

を作成し、その妥当性の検討を行った。作成したテスト (KT-ABA : 以下 KT-ABA) は 41 項目の選択式のテストで、約 30 分で回答できる簡便なものであった。

	The clinic ians (N=16)	Studen ts (N=122)	Teac hers (N=13)	Othe rs (N=50)
KT- ABA	37.2	30.4	24.7	25.1
S.D.	2.07	4.83	4.31	5.10

表 1 KT-ABA の得点比較

(2)KT-ABA を用いて認定行動療法士の資格を持つ専門家、学部学生、教師、保護者を含むその他を対象に得点の比較を行った(表 1)。その結果、専門家群が最も得点が高かった。

KT-ABA の妥当性について、従来から用いられている類似のテストである KBPAC との比較検討を行った。その結果両テストは高い相関があることが認められた ( $r=.443$ )。

(3)次に、これまで行動分析の学習経験のない教師や施設指導員を対象に、本研究で作成した研修プログラムを実施し、実施前後の KT-ABA と KBPAC 得点の変化を測定した(図 1)。その結果、両テストともに研修後に得点の増加が見られたが、KT-ABA の得点の変化は KBPAC よりも大きく、研修成果に対する感受性が高いことが考えられた。

Compare pre and post ABA lecture

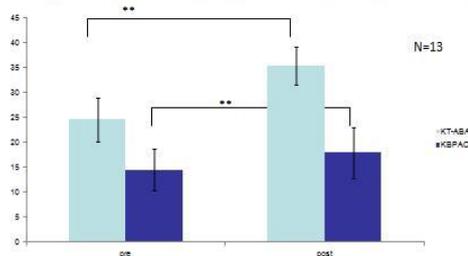


図 1 研修後の両テストの得点変化

(4) 研修用の DVD とテキスト及びワークシートを作成し、それを用いて教員、施設指導員の研修を行った。これまでの研究と同様に、

研修によって ABA 基礎知識の習得が見られた。

(5) 研修前後の実際の指導スキルの変化を 10 項目の行動評定によって検討を行った。その結果、指導技術の明らかな改善は見られなかった(図 2)。そのため、OJT による指導を行い、指導技術の向上を試みた。

指導スキルの変化 (参加者A)

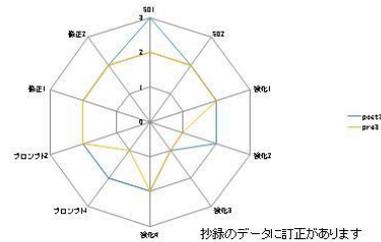


図 2 指導スキルの変化

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

① Shinji Tani, Nanoha, Iwasaki, and Ayaha Iwasaki, Intraverbal Training with an autistic child, Human Sciences,2009,No.8,1-8, 査読なし,

〔学会発表〕(計 4 件)

① 岸下弥生、谷 晋二、スタッフトレーニングプログラムの開発の試み 6ー基礎知識の習得と指導スキルの変化ー、日本行動療法学会、2009

② Shinji Tani, Development of Japanese Knowledge Test of ABA(KT-ABA), ABA International Conference, 2009

③ 岸下弥生、谷 晋二、スタッフトレーニングプログラム開発の試み 5、日本行動療法学会、2008

④ Shinji Tani, The home-based intraverbal training with an autistic child, ABAI, 2008

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷 晋二 (Tani Shinji)

大阪人間科学大学・人間科学部・教授

研究者番号 : 20368426

(2) 研究分担者

( )

研究者番号 :

(3) 連携研究者

( )

研究者番号 :